



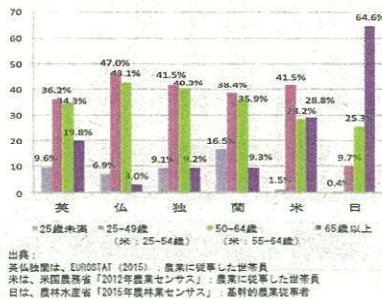
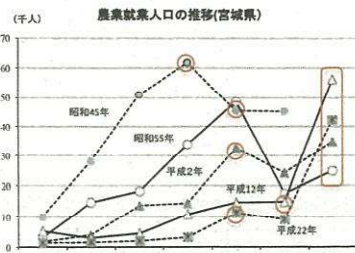
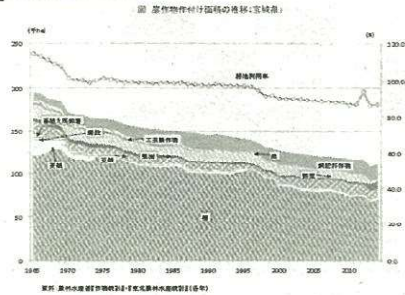
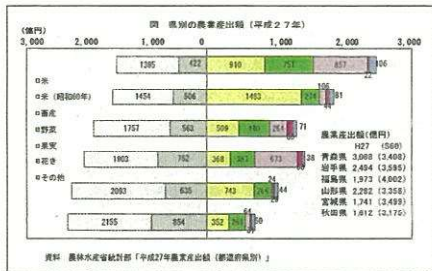
東北大学

### 『人・農地プラン』を活かした地域農業の展開

東北大学大学院農学研究所 伊藤房雄

- これまでの『みやぎの農業』（スライド2参照）
  - 耕地面積・農業産出額・作付面積・農業就業人口・コメ在庫 etc.
  - 米依存の限界、労働の高齢化、担い手不足
- 『みやぎの農業・農村』を取り巻く外部環境の変化（スライド3、4、5参照）
  - 人口・食料消費・世帯構成・気候(地球温暖化 etc.)
  - 農業政策(農地中間管理機構、人・農地プラン、生産数量目標の廃止 etc.)
- これからの『みやぎの農業・農村』の課題（スライド6、7、8参照）
  - 需要の変化に即した農業生産・適切な地域資源の保全と管理
  - 温暖化に適応した生産体系の確立と生産基盤(ハード面)の整備
  - 適地適作にもとづく地域類型・販売戦略の根本的見直し etc.
- 担い手の経営力強化による地域農業の発展に向けて（スライド9、10参照）
  - 担い手のスキルアップと経営基盤の整備、関係機関・団体の支援強化 etc.

### これまでの『宮城県の農業』の概観

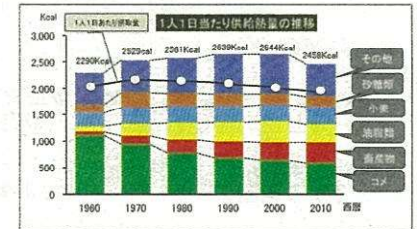
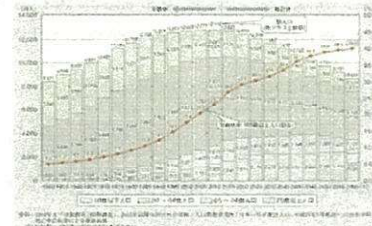


### 地域農業の将来を考えるとときに必要な5つの視点

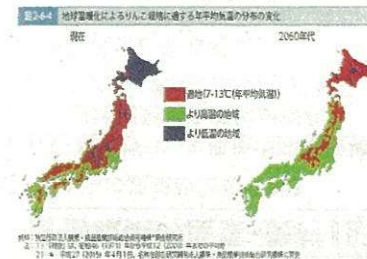
- 農業生産基盤(農地、労働、資本、水)の量的質的变化
- 農業生産の技術革新
- 消費、流通および農産物市場の変化
- 農業政策の変化
- 社会経済と気候など自然条件の変化

### 『宮城県の農業・農村』を取り巻く外部環境の変化

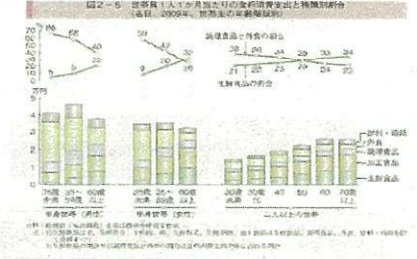
日本の人口減少・少子高齢・生活インフラの維持困難 胃袋で食べる時代⇄舌で食べる時代⇄脳で食べる時代



### 地球温暖化 ⇄ 食料生産の適地の北進

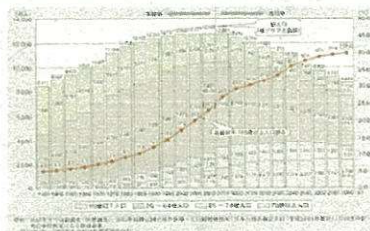


### 外食と加工食品に依存する単身世帯の増加

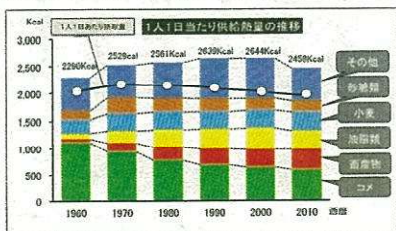
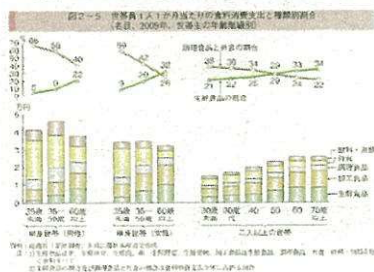


# 『宮城県の農業・農村』を取り巻く外部環境の変化(続き)

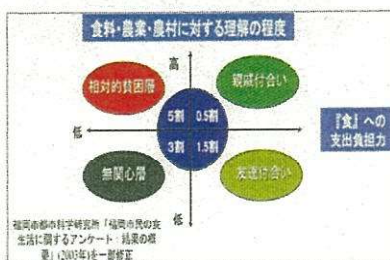
日本の人口減少・少子高齢化生活インフラの維持困難 胃袋で食べる時代→舌で食べる時代→脳で食べる時代



外食と加工食品に依存する単身世帯の増加



多様な消費者の存在(『食』マーケット)



# 『宮城県の農業・農村』を取り巻く外部環境の変化(続き)

【これからの農業政策の基調】

善し悪しは別として長期安定政権は農業政策の不確実性を低下させる

- 人・農地プラン&農地中間管理機構
  - 農地流動化の制約が緩和
    - ただし、兼業機会の多寡や宅地需要の高低で地域格差はあるだろうが...
- 生産数量目標の廃止
  - コメの需給調整は市場に委ねる
    - 生産者団体による需給調整は困難?!
    - 自家飯米・縁故米を生産する兼業農家等に米価の変動は影響なし
  - コメ取引に関わるプレーヤー(主たる経済主体)の誰がリスクを負担するか?
    - リスクの軽減手段 → (ゲタ)とナラシ + 農業収入保険
- 貿易政策の展開
  - 自由貿易体制の強化(TPP, EPA, FTA, 二国間交渉など)
- 農業関連団体等の再編と協調
  - 人口減少(農業就業人口や農家数の減少)のもとで組織再編は不可欠
  - 農協と農業法人の補完的協調関係も不可欠

【これからの気候や技術革新の動向】 (スライド4、別途スマート農業動画参照)

- 地球温暖化の進行に伴う産地の移動(北上、標高差)や再編は必至
- ICT及びIoTの加速度的進化、並びに先端プロ等の先端技術展開事業に注目!
- 医福農連携やアグリインフォマティクス(スマート農業)にも注目

## スマート農業の将来像

1 超省力・大規模生産を実現



GPS自動走行システム等の導入による農業機械の夜間走行・複数走行・自動走行等で、作業能力の限界を打破

2 作物の能力を最大限に発揮



センシング技術や過去のデータに基づくきめ細やかな栽培により(精密農業)、作物のポテンシャルを最大限に引き出し多収・高品質を実現

### スマート農業

ICT、ロボット技術を活用して、超省力・高品質生産を実現する新たな農業

3 きつい作業、危険な作業から解放



収穫物の積み下ろしなどの重労働をアシストスーツで軽労化するほか、除草ロボットなどにより作業を自動化

4 誰もが取り組みやすい農業を実現



農業機械のアシスト装置により経験の浅いオペレーターでも高精度の作業が可能となるほか、ノウハウをデータ化することで若者等が農業に魅了とトライ

5 消費者・実需者に安心と信頼を提供



クラウドシステムにより、生産の詳しい情報を実需者や消費者にダイレクトにつなげ、安心と信頼を届ける

出典) 農林水産省資料より引用

## これからの『宮城県の農業・農村』を考える大前提について

【多様な担い手の存在と今後の農業経営体の予測】 **これから≒10年程度先**

- 多様な担い手の存在
  - 今後は二極化が予想
    - 大規模経営(主業農家、集落営農、組織経営体、農業生産法人など)
    - 中規模経営(準主業農家、生産組織、生産部会など)
    - 小規模経営(副業農家、高齢専業農家、定年帰農農家、新規参入など)

\* 急激な変化が予想される農業労働力 担い手の二極化 鍵を握っている!

- 5年程度先の農業経営体の特徴
  - 大規模化可能: 5%未満、現状維持: 20-30%、離農予備群: 60-80%

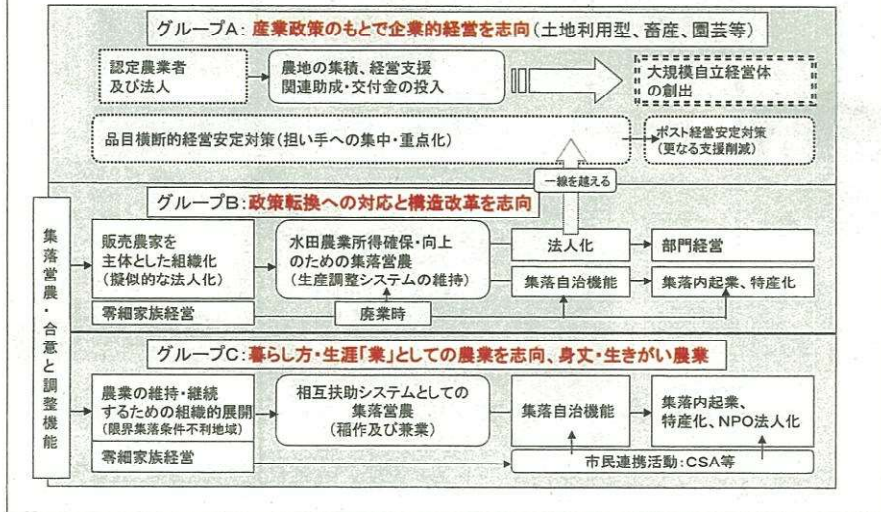
注) 門間敏幸(2016)「わが国の水田農業の構造変動とその対応」東京農業大学農業集報,第61巻,第1号,pp.6-15.

【これからの担い手≒農業経営者が考えるべき経営戦略の基本】

- 経済性: 事業領域、採算性、ビジネスモデル
- 社会性: 環境問題や社会問題の解決への貢献
- 文化性: 価値観やライフスタイルの提案



●農政大転換への対応として「法人化(企業の経営)を前提にした**集落営農**」がすすんでいるが・・・



注: JA宮城中央会資料より引用(筆者一部加筆修正)

これからの『宮城県の農業・農村』

【平坦地域、都市近郊地域】

- ☞ 大規模土地利用型スマート農業、スマート園芸の展開
- \* 米、麦、大豆、業務用野菜、観光農園など
- 稲作から畑作への転換を伴う水田農業振興

【中山間地域など条件不利地域】

- ☞ 特色ある米、業務用野菜、果樹、スマート畜産の展開
- ☆ どの地域でもスマート農業に適した農地整備が不可欠

これからの『宮城県の農業・農村』の課題

- ・『**飽食**』の時代では需要の変化に即した農業生産が不可欠
- ・温暖化に適応した生産体系の確立と **生産基盤の整備**
  - ☞ 米生産からの脱却 → 野菜作、果樹作の振興 → **畑地整備(田畑輪換含む)**
  - ☞ 『売れるコメ、野菜、果樹』とは? → **業務用・加工業務用原料、契約栽培など**
  - ☞ 畜産の維持発展と**環境保全型スマート農業の技術体系の確立**
  - ☞ 適地適作にもとづく**地域類型化と地域別栽培体系マニュアルの作成**
- ・販売戦略の根本的見直し(最終的に誰が価値相当額を支払ってくれるのか?)
  - ☞ **目標購買層の絞り込みとそれに合わせたマーケティング戦略の構築**
- ・農業の**6次産業化(広義)**や**輸出(販路の一つ)**も**収益向上、雇用創造**に重要
- ・『**東北の農業・農村**』の**ファンづくり** ☞ 生産者と消費者を結ぶ『**つなぎびと**』の活躍
- ・**経済効率の追求と運動論の二正面作戦**
  - ☞ スイスの経験(国産品消費の意義を幼少教育)をもとに**長期的な食農教育**が必要
- ・これからの『**農村のあり方**』については今後検討されるべき**緊要の課題**

これからの『宮城県の農業・農村』の課題(続き)

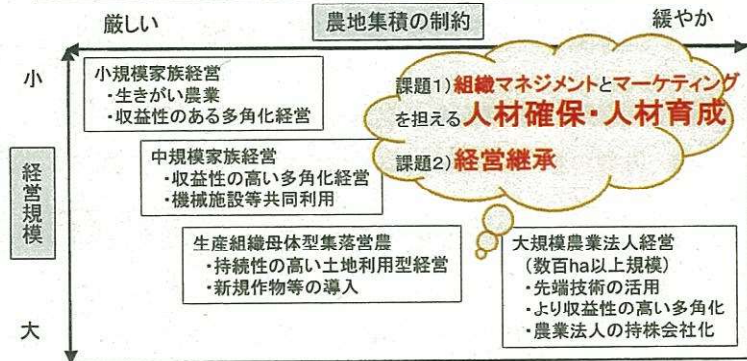
【**農地に焦点をあてた**地域農業の今日の特徴と課題】

- **土地持ち非農家の増大**と五月雨的な**小規模農地の供出**
- **再生産される副業的農家(兼業農家、定年帰農)**と**新規就農、新規参入**
- 思うように進まない担い手農家への**面的集積**と受入に対する**限界感上昇**
- **共有化されていない地域農業ビジョン**
- 地域農業ビジョンの実現に向けた**関係機関、関係団体の曖昧な役割分担**

【**地域農業の課題解決に向けた『人・農地プラン』の再構築**】

- 農地を所有する者と耕作する者が、他人事ではなく、自分の課題と認識する**重要性**
- **情報共有の『場』、意見共有の『仕組み』、期限を決めた『意思決定』**

# これからの宮城県の農業経営像とその特徴



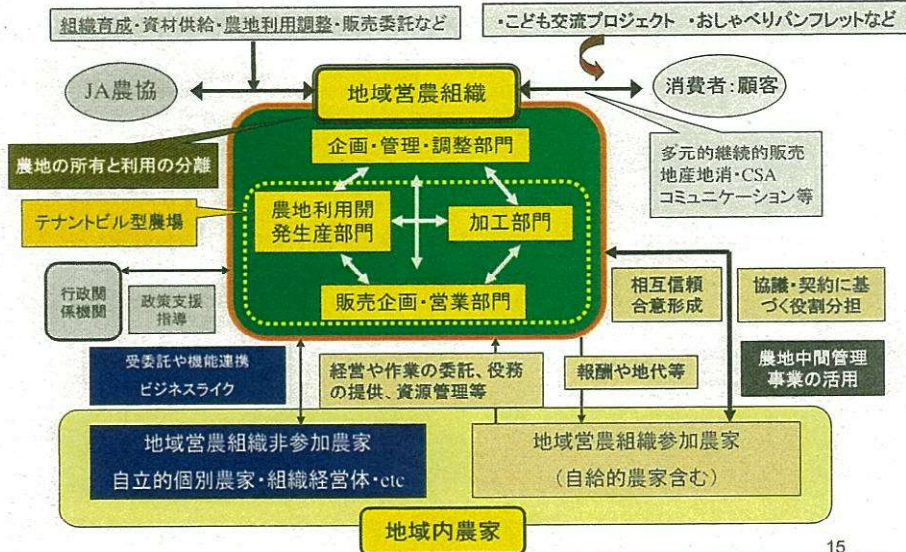
【閑話休題: これからの農業経営は家族経営か法人経営か?】

	持続性	収益性	迅速な意思決定
家族経営	◎	△	○
法人経営(株式会社など)	△	◎	◎
法人経営(農事組合法人)	△	△	△

経営形態はどうであれ、家族経営の本質を内蔵した法人経営に優位性があるのではないかと!

☞ **Farm Family Business** の世界的展開 ☞ **データに基づく経営管理は不可欠**

地域農業の理想型: 農地の利用と分離を前提とした集落営農と個別経営の共存



上記理想の実現に向けた課題 ☞ 地域リーダーや青年農業者等の人材育成、専従マネジャーの確保、etc.

地域農業の発展とは

☞ 高収益農家や生きがい優先農家など**地域の多様な担い手**が、各々の**経営目標を実現して持続性の高い農業を展開**している姿(理想型)

① 地域営農ビジョンの基本形 = 全員参加型の地域農業が理想(スライド15参照)

ただし、それぞれの地域に地域特性や地域風土があり、**地域営農ビジョンは多様**  
例えば、平坦地と中山間地、内陸部と沿岸部(津波被災地)、近世藩政領ごと、ect.

☞ 誰が、どうやって、地域営農ビジョンをつくるのか? **とは言え、首長の役割は大!**  
誰が? 地域営農ビジョン策定の主体は地域の農業者、行政・JA・団体は支援組織  
どうやって? 人・農地プランを活用 ☞ **農地集積は担い手作りの手段**

☞ しかし、地域営農ビジョンを策定する前に.....やるべきこと

- 1) **地域範囲の限定** ☞ まずは**集落単位(最大で『字』単位)**、市町村単位は非現実的
- 2) **地域資源(ヒト、土地、農業機械・施設)の現在と5年先の『棚卸し』**  
☞ 支援組織による現状分析と多様な担い手間での分析結果(危機意識)の共有
- 3) 定期的な農閑期の集落総点検(PDCA)の実施と**『未来の他者』への配慮(責務)**

② 担い手(新規就農者含む)の経営力強化 + 経営発展に必要な7つのチカラ

- ①情報力 ②企画力 ③技術力 ④組織・管理力 ⑤資金力 ⑥行動力 ⑦個性
- ☞ これらの強化には**OJTとOff-JTの実践**あるのみ! **『まずはやってみなはれ!』**

③ 待ったなしの現状 + 出来ることは今日から実行 ≠ **明日から...では遅すぎる!**

☞ 外部環境の変化に**適応(意思決定)**していくために残された時間は...あと数年

最後に...時代が求める農業生産、農業経営、地域営農を担う人材をどう育成していくのか

ここで農業経営とは、経営者の夢や目標、経営理念を実現するための行為  
外部環境の変化に適応できた経営が生き残る = 自然界の摂理



少子高齢化・人口減少局面で、地方の道路や橋梁、公共サービスなど生活に不可欠な社会インフラの維持に必要な住民負担は年々増加  
☞ **安全で安心な食料の安定供給**とともに重要な課題 ☞ **今後の重要な論点**